

第2回創玄杯躰道競技大会

主催：創玄会・三田道場

会場：練馬区立総合体育館

日時：2025年6月22日（日）

役員・審判集合 : 8:00~

選手入館 : 8:30~

(体育館前での待機禁止。入館時間に合わせたご到着をお願いいたします。)

開会式 : 9:00~

退館 : 21:00

目次

- 創玄杯とは
- ご挨拶
- 大会役員
- 競技内容・出場資格（概要）
- 時程表
- トーナメント
 1. 新人運足八法競技
 2. 男子段位個人法形
 3. 女子段位個人法形
 4. 男子級位個人法形
 5. 女子級位個人法形
 6. 男子段位個人実戦
 7. 女子段位個人実戦
 8. 男子級位個人実戦
 9. 女子級位個人実戦
 10. 段位団体実戦
- 結果速報サイト
- アクセス
- 諸注意
- 観客席の割り振り/開閉式並び順
- 躰道五条訓
- 競技内容・出場資格（詳細）

創玄杯とは

創玄杯は、初代宗家祝嶺正献最高師範の教えである「躰道は85%完成した」という理念に基づき、残された15%を創造・進化させることを目的に設立された躰道競技大会です。

本大会は、単なる競技大会にとどまらず、指導者・審判・選手・役員が躰道の奥深さを探求し、共に学び合う合同研修の場でもあります。

競技内容は、躰道の85%の基盤を再確認し、さらに深化させることを目指し、各団体の習熟度に応じた新たなテーマを設定し、日々の稽古と連動した挑戦の場を提供します。

そして、競技大会の成果だけでなく、私たちに残された15%を「創造進化」の理念で埋める使命を果たし、参加者全員が創造的主体となり、次なる躰道の未来を切り開いていくことを目的としています。

創玄会 安部 幸史郎

ご挨拶

第2回創玄杯躰道競技大会
大会 会長 安部 幸史郎

第2回創玄杯躰道競技大会が開催されるにあたり、実行委員会の皆様をはじめ、多くの関係者の皆様のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

創玄杯は単なる競技大会にとどまらず、指導者・審判・選手・役員が躰道の研鑽を積み、互いに学び合う場として位置付けられています。

今回は創玄会関係者に加え、東京都内で親交の深い先生方、さらには青森県・宮城県・山梨県を代表する先生方にもご参加いただく運びとなりました。日頃より躰道の普及と発展にご尽力いただいている先生方へ深く敬意を表するとともに、多忙な中こうして一堂に会していただいたことに、心より感謝申し上げます。

本大会を通じて、団体の垣根を越えた交流が生まれ、躰道がさらに広がり、深化していくことを期待しております。

さて、創玄杯の理念は「創造進化」により躰道の未来(15%)を築くことにあります。しかし現在はその前段階として、長年の歩みの中で失われつつある「躰道の基盤(85%)」を取り戻す作業を進めています。そしてこれは単なる実技指導ではなく、揺るぎない躰道を築くために不可欠な「躰道理念」の再確認という重要なテーマを含んでいることを重視しております。

そして、創玄杯にとって本格的な「創造進化(15%)」への挑戦こそが、今後の目標ですが、本大会を通じて、その基盤をさらに強固にし、未来への新たな扉(15%)を開く契機となることを心より願っております。

最後に、本競技大会の成功を祈念するとともに、ご参加の皆様の躰道におけるさらなる研鑽と飛躍を心より願い、ここに「ご挨拶」を申し上げます。

大会役員

大会会長	安部 幸史郎
大会審判長	安部 幸史郎
大会審判員	ヒューゴソン アルバル、小松 武、小林 真由、小林 大輔、春日世生、小松 万里子、青木 寛敏、山際 真穂、古田 一行、宇野 友季子、良本 真基、宇部 真広、名倉 崇広、本田 拓馬、小松 慎太郎、佐藤 幹、保坂 由実、高松 大地、磯野 遥、齋藤 健太、藤田 政徳、吉本 一貴、阿部 舜、山口 海斗、竹内 智一
大会実行委員長	良本 真基
大会実行委員	創玄会 村瀬 和都、小松 慎太郎、谷井 嶺太、齋藤 健太、佐藤 幹、高松 大地、吉本 一貴、宮下 知也
	東京大学 運動会躰道部 山際 真穂、名倉 崇広、小林樹里、花澤栞奈
	宇野 友季子、藤田 政徳、塚原 泰、御幸 怜史、鷺津 匠哉
大会進行委員	藤田 政徳(筆頭)、前田尚大、坂本壮志、大澤夏帆、中村航士朗、松川美伊、室朝喜、小川孝衛、田村哲也、林夏帆、平野悠太、池田美璃、荻野聖琉、勝部駿貴、金子侑生、岡部明人、小原瑠唯、神寄洋紀、熊田将、樹神歩
出場団体	創玄会
	三田道場
	東京大学運動会躰道部
	慶應義塾大学躰道部
山梨大学躰道部	

競技内容・出場資格（概要）

No	競技種目名	出場資格	競技内容
1	新人運足八法競技	初階及び 一般無級・ 男女混合	以下の URL に掲載された筋で、運足・基本技を行う。 構えや運足、動攻五戒の体得を重視し判定を行う。 https://youtu.be/XyqWEPUmW4A?feature=shared
2	男子段位個人法形競技	初段以上 ・男子	1 回戦から決勝戦まで変体の法形 法形の十大要素、基礎動作、動功五戒による基本技法に加え、 他律的要素の表現度を重視して判定を行う。
3	女子段位個人法形競技	初段以上 ・女子	1 回戦から決勝戦まで変陰の法形 法形の十大要素および基礎動作及び動功五戒による基本技法 に加え、他律的要素の表現度を重視して判定を行う。
4	男子級位個人法形競技	1～4 級 ・男子	1 回戦から決勝戦まで変体の法形 法形の十大要素および基礎動作及び動功五戒による基本技法 に加え、他律的要素の表現度を重視して判定を行う。
5	女子級位個人法形競技	1～4 級 ・女子	1 回戦から決勝戦まで変陰の法形 法形の十大要素および基礎動作及び動功五戒による基本技法 に加え、他律的要素の表現度を重視して判定を行う。
6	男子段位個人実戦競技	初段以上 ・男子	競技時間 1 分半で実戦競技を行う。 基本的かつ発展的な実技の体得を重視し判定を行うこととし、 競技時間の中で指導時間を設け、指導の程度を判定に反映させ る。 また、操体の不十分な実技や制法・防手の未成熟な実技等は 判定の引き下げも考慮する。
7	女子段位個人実戦競技	初段以上 ・女子	
8	男子級位個人実戦競技	1～4 級 ・男子	
9	女子級位個人実戦競技	1～4 級 ・女子	
10	段位団体実戦競技	初段以上・ 男女混合	競技時間 1 分半で実戦競技を行う。 男子 3 名、女子 2 名を 1 チームとする。 各団体から最大で 2 チームまで参加可能とする。 ※通常の競技ルールと変更はなし。

時程表（午前）

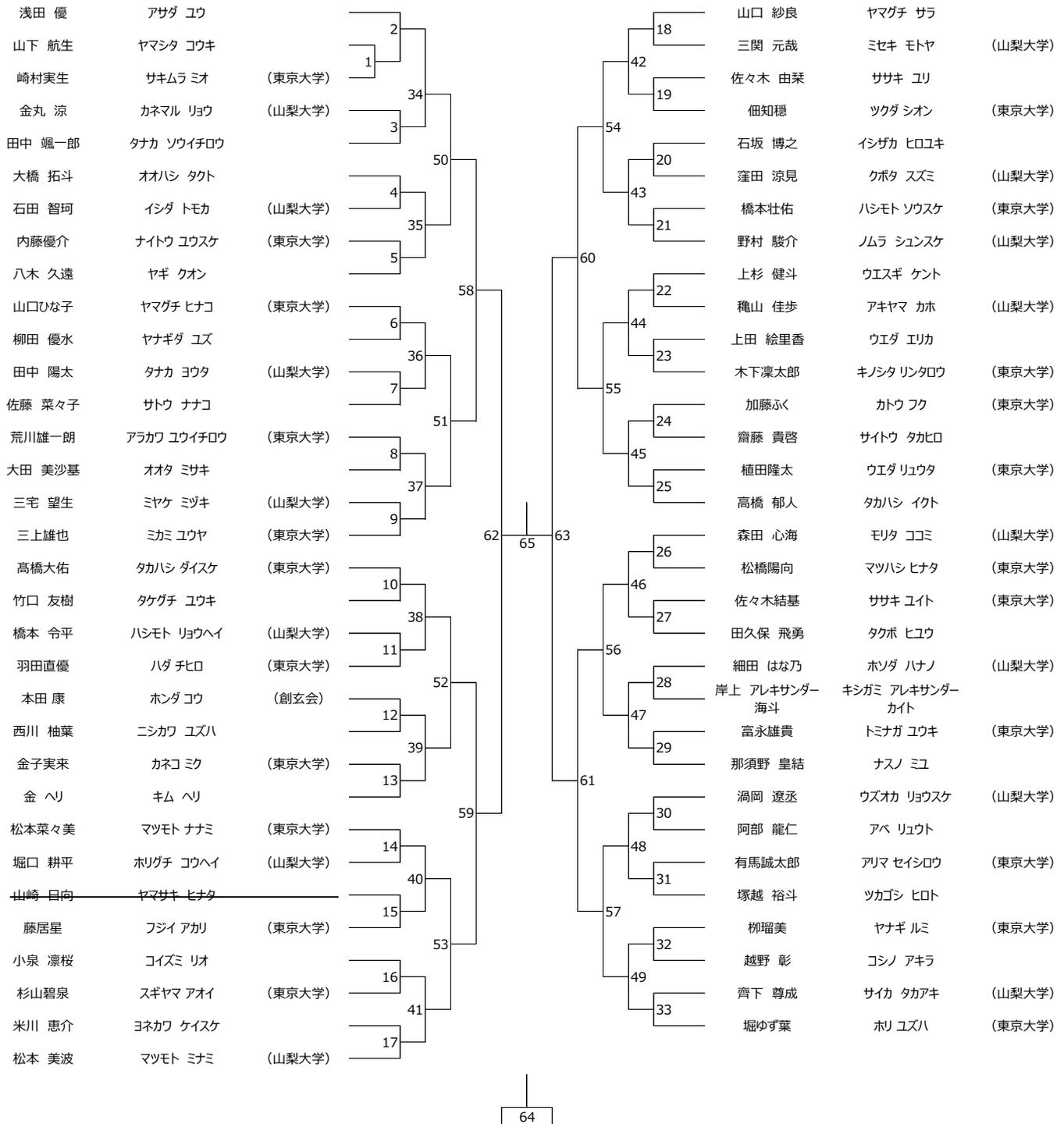
時刻	Aコート	Bコート	Cコート	Dコート	時刻
8:00 8:30	審判・役員集合				8:00 8:30
8:30 9:00	選手集合・アップ				8:30 9:00
9:00 9:15	開会式				9:00 9:15
9:15 10:15	男子級位法形A No.1-8,17-20, 25,26,29	男子級位法形B No.9-16,21-24, 27,28,30	女子級位法形C No.1-4,9,10,13	女子級位法形D No.5-8,11,12,14	9:15 9:50
10:15 11:05	新人運足A No.1-9,34- 37,50,51,58,62	新人運足B No.10-17,38- 41,52,53,59	新人運足C No.18-25,42-45, 54,55,60,63	新人運足D No.26-33,46-49, 56,57,61	9:50 10:40
11:05 12:05	男子段位法形A No.1-9,18-21, 26,27,30	男子段位法形B No.10-17,22-25, 28,29,31	女子段位法形C No.1-9,18-21, 26,27,30	女子段位法形D No.10-17,22-25, 28,29,31	10:40 11:40
12:05 12:40	女子級位実戦A No.1-4,9,10,13	女子級位実戦B No.5-8,11,12,14	男子級位実戦C No.1-7,15-18, 23,24,27	男子級位実戦D No.8-14,19-22, 25,26,28	11:40 12:40
12:40 13:45	昼休み				12:40 13:45

時程表（午後）

時刻	Aコート	Bコート	Cコート	Dコート	時刻
13:45	男子段位実戦A No.1-4,9-16,25-28, 33,34,37	男子段位実戦B No.5-8,17-24,29-32, 35,36,38	女子段位実戦C No.1-5,12-15, 20,21,24	女子段位実戦D No.6-11,16-19, 22,23,25	13:45
14:55					14:30
14:55	団体実戦A No.1,5	団体実戦B No.3,6	団体実戦C No.2	団体実戦D No.4	14:55
15:25					15:10
15:25	新人運足決勝 男子級位法形決勝 男子段位法形決勝 男子級位実戦決勝 男子段位実戦決勝	新人運足三決 女子級位法形決勝 女子段位法形決勝 女子級位実戦決勝 女子段位実戦決勝	男子級位法形三決 男子段位法形三決 男子級位実戦三決 男子段位実戦三決	女子級位法形三決 女子段位法形三決 女子級位実戦三決 女子段位実戦三決	15:25
15:45					15:45
15:45	団体実戦決勝	団体実戦三決			
16:00					
16:10	閉会式				16:10
16:30					16:30
16:30	写真撮影&休憩				16:30
17:30					17:30
17:30	ご指導				17:30
20:00					20:00
20:00	撤収				20:00
20:30					20:30

トーナメント

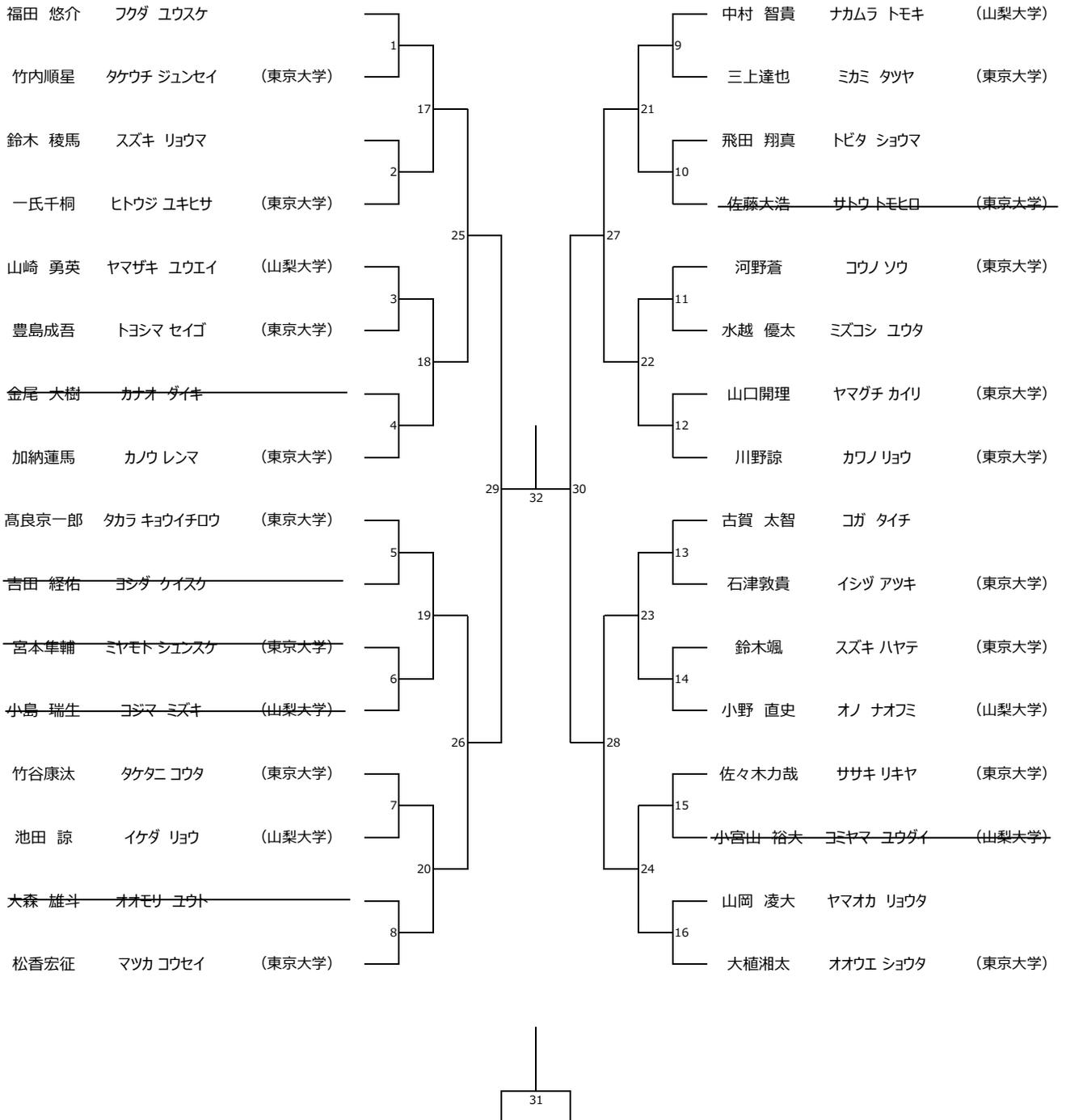
1. 新人運足八法競技



トーナメント

4. 男子級位個人法形

指定法形：変体の法形

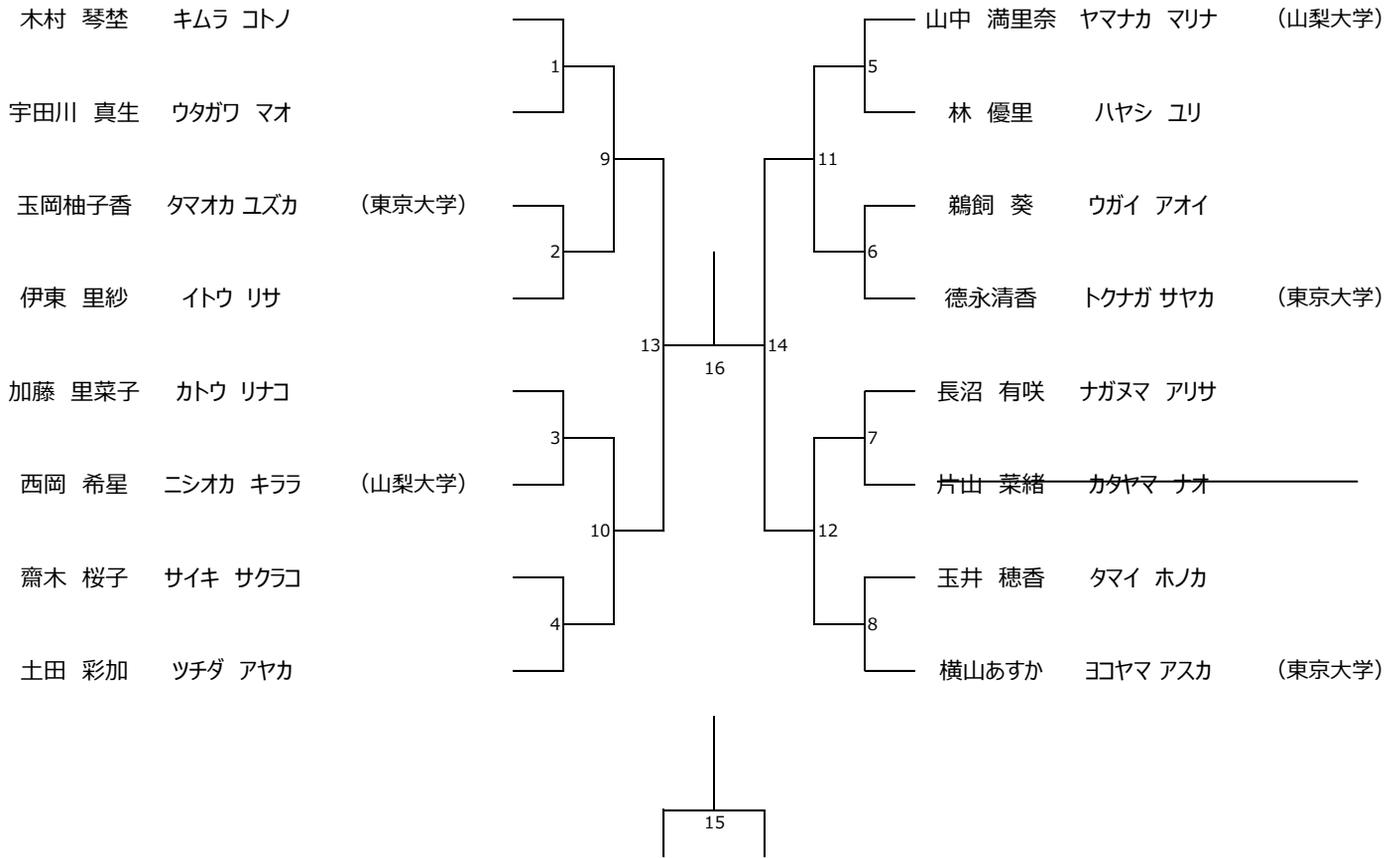


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

5. 女子級位個人法形

指定法形：変陰の法形



優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

6. 男子段位個人実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター着用厳守

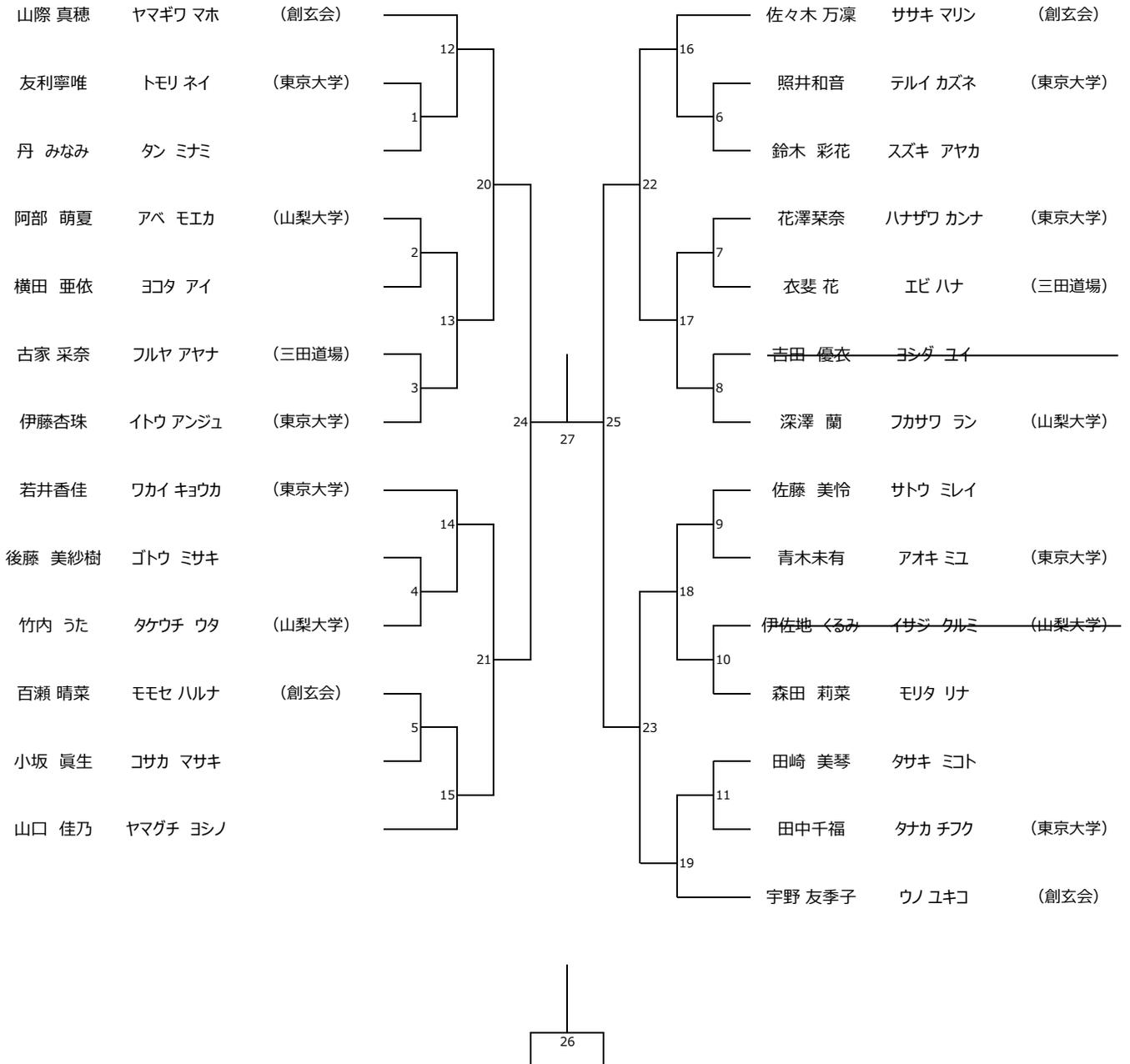


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

7. 女子段位個人実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター着用厳守

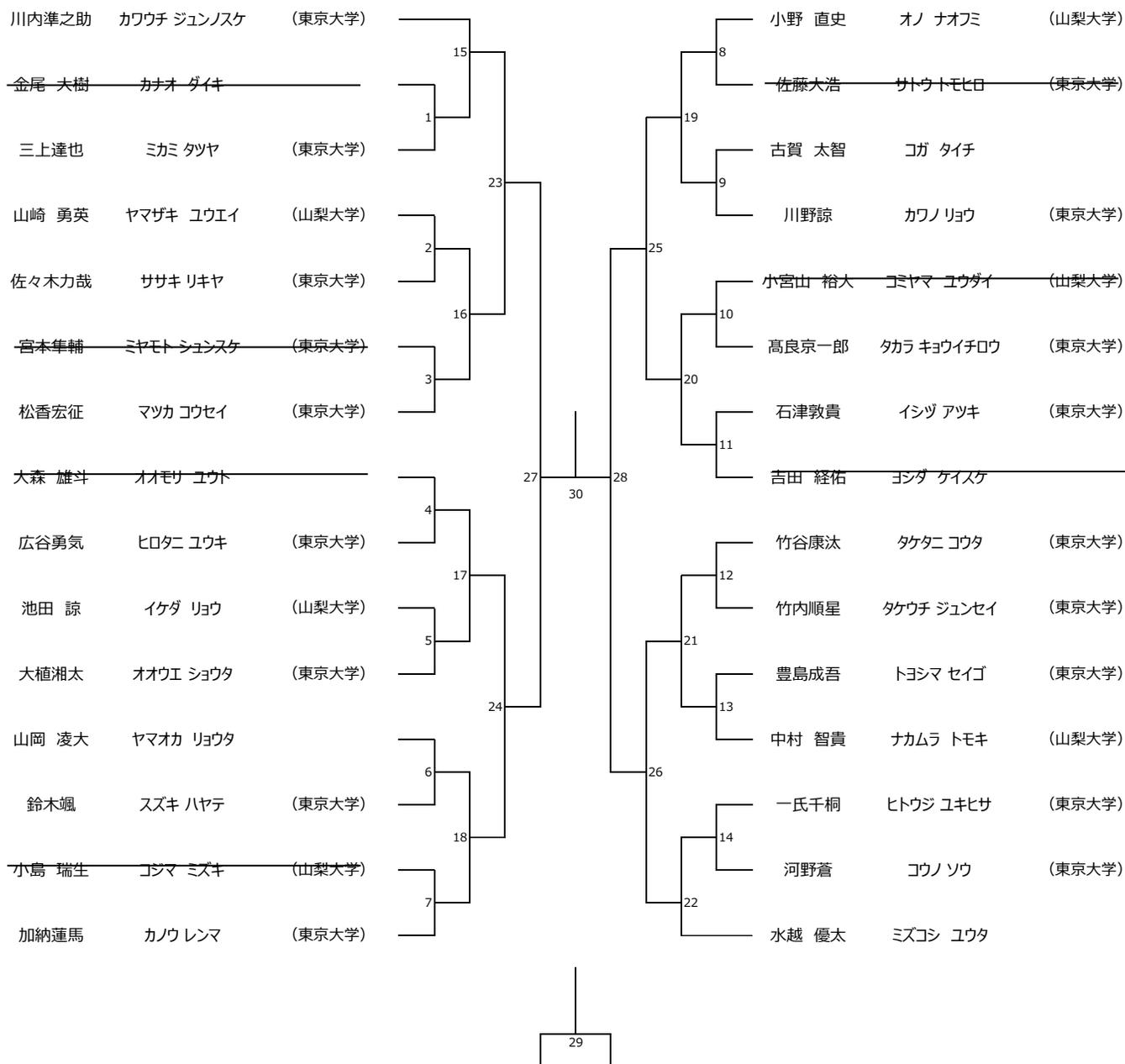


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

8. 男子級位個人実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター・面ピット着用厳守



優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント

9. 女子級位個人実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター・面ピット着用厳守

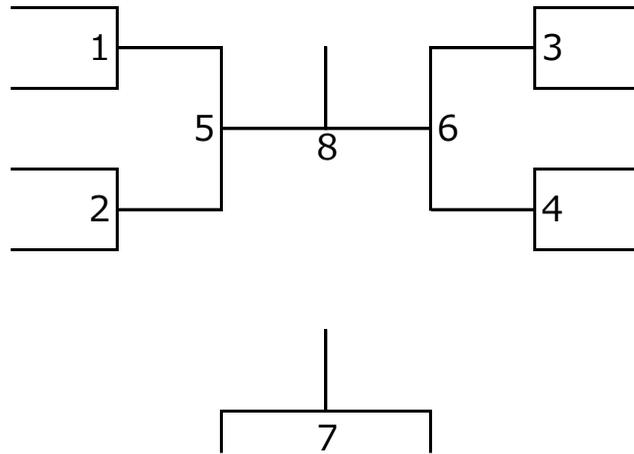


優勝	第2位	第3位	第4位

トーナメント 10. 段位団体実戦

試合時間 1分30秒
胴プロテクター着用厳守

創玄会A
チームB
東京大学B
山梨大学



創玄会B
三田道場
東京大学A
チームA

優勝	第2位	第3位	第4位

結果速報サイト

以下サイトで大会結果をリアルタイムに確認いただけます



リンク : <https://taido-competition-record-582899402371.asia-northeast1.run.app/>

アクセス

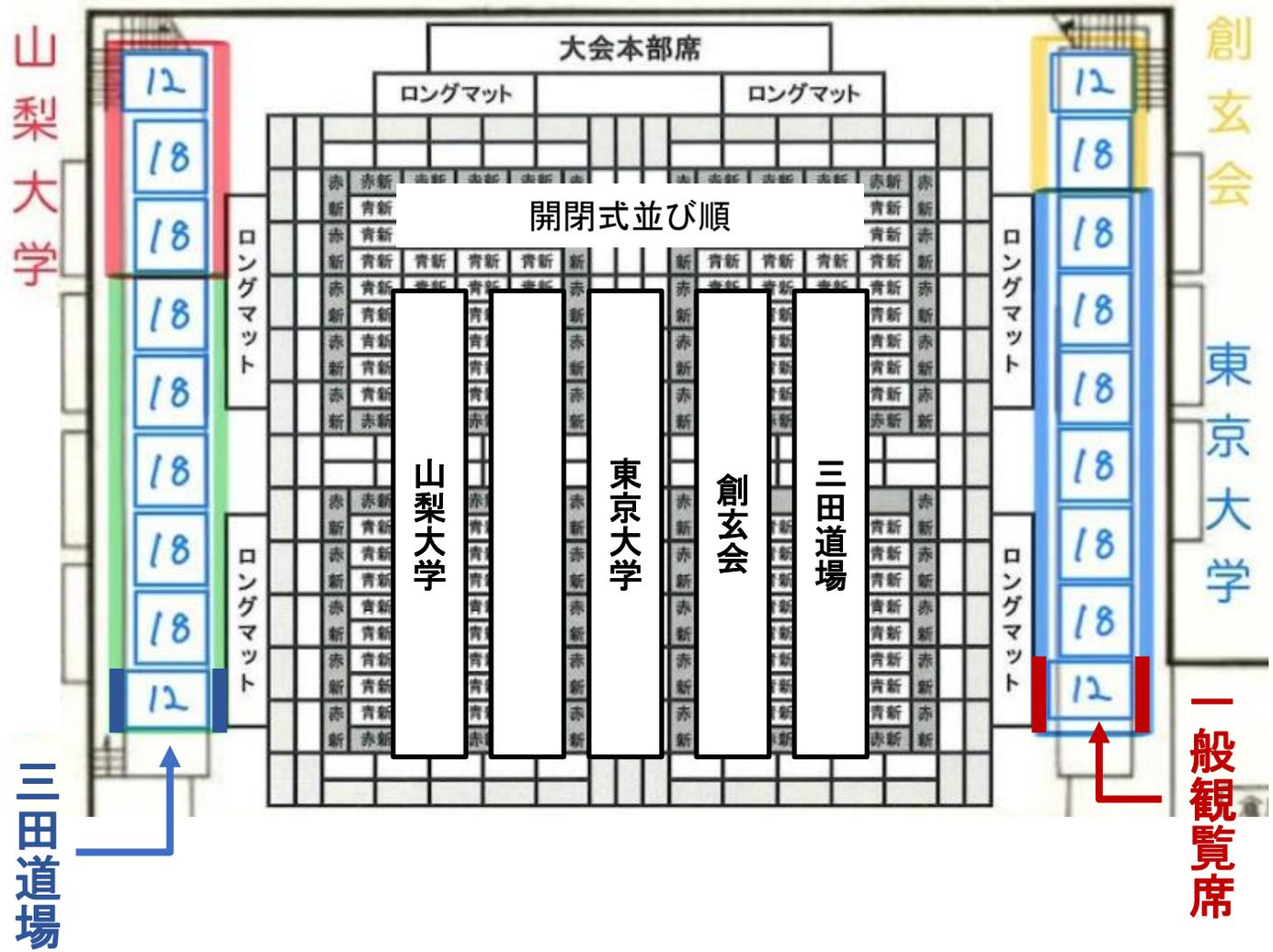
- 会場：練馬区立総合体育館
- 住所：〒177-0032 東京都練馬区谷原1丁目7番5号
- 電話：03-3995-2805
- HP：<https://www.city.nerima.tokyo.jp/shisetsu/koen/taiku/sogo.html>
- 公共交通機関の利用：
 - 【西武池袋線】
練馬高野台駅北口下車徒歩15分
練馬駅から「西武バス」成増町行ー練馬総合体育館下車2分
練馬高野台駅北口から「西武バス」成増町南口行ー谷原三丁目下車4分
大泉学園駅北口から「西武バス」練馬駅行ー練馬総合体育館下車0分
 - 【東京メトロ】
成増駅近く「成増町」バス停から「西武バス」練馬駅行ー練馬総合体育館下車0分
 - 【JR】
吉祥寺駅から「西武バス」成増町行ー谷原三丁目下車4分
- 車の利用：
 - 原則、公共交通機関の利用をお願いします
 - お車で来られる場合、体育館裏にある【第二駐車場】をご利用ください
 - 午前8:00から駐車可能です。時間前に並ばないようお願いします
 - 係員からの誘導に従って奥から止めてください
 - 駐車場は有料です（最初の1時間200円。以後30分ごとに100円）
 - マイクロバス等の車はローラー側の駐車場へお願いします。
なお、ローラー側の駐車場は午前7:00から駐車可能です。
時間前に並ばないようお願いします。
 - 大型バスは駐車できません
 - 次ページで補足いたします

諸注意

- 事前確認のお願い
 - 本大会は、通常の大会ではなく、指導的要素を重視した大会になります。そのため、出場選手・審判ともに、競技内容や判定の観点について事前に熟読の上、ご参加ください。
- 持ち物
 - 出場選手は大会当日、「健康保険証」を必ずご持参ください。
 - **サンダルまたはスリッパをご持参ください。観客席、競技場以外では履物をお履きください。**
- 服装
 - 出場選手は、日本躰道協会公認の躰道着を着用してください。
 - 実戦競技出場選手は、必ず指定の胴プロテクターを道着の下に着用してください。級位実戦出場選手は面ピット着用も必須となります。段位実戦出場選手も着用可能です。
 - 団体実戦の競技監督も躰道着着用でご参加ください。
 - 本大会では、閉会式後に指導時間を設けることを想定しているため、審判も躰道着着用にて実施します。
 - **着替えはB1更衣室の使用をお願いします**
 - **裸足は競技場のみ可能です。その他（観客席・ロビー・通路・トイレ等）は裸足が禁止のため、履いてきた靴や持参したサンダル等を履くようにしてください。**
- 開会式
 - 出場選手は事前に「躰道五条訓」を練習し、唱和できるようにしておいてください。当日は、選手代表のもと、全員で唱和を行います。
- 食事
 - **食事は、観客席か会議室のみで行って下さい。**
 - **ロビー・コートでの食事は一切禁止となります。**
- 会場の片付け
 - 大会終了後、速やかに片付けをお願いします。
 - お持ちになったゴミはご自身で必ず持ち帰りください。また、退館時、観客席等にゴミが残っていないことを確認の上、ご移動ください。
- 観客席
 - **各団体に指定された観客席（次ページ参照）をご活用ください。**
- 大会中の所作
 - 他のお客様の妨げになるような事がないように心がけてお過ごしください。
 - 問題や緊急事態が発生した場合は、速やかに実行委員会にお知らせください。
 - 他の利用者も来館していますので、ロビー・通路等は使用禁止です。
- 貴重品
 - 誰でも大会会場に観客として入場できる状況となっております。各団体の貴重品の管理を行ってください。実行委員会では貴重品の保管場所などのご準備はございませんのでご容赦ください。

観客席の割り振り※ / 開閉会式並び順

1階平面図 正面



※一般観覧席を追加しています(2025/06/19)

躰道五条訓

- 一、心明鏡にして諸行の実相を写し
心位正しきを得れば惑さる事なし
- 一、態端正にして心形の一体を圓り
態位正しきを得れば侮られる事なし
- 一、氣充溢にして精氣を丹田に発し
氣位正しきを得れば恐れ戦く事なし
- 一、行実践するに倫理の常道を守り
行位正しきを得れば誤り行つ事なし
- 一、技応変にして身体を自在に移し
技位正しきを得れば制される事なし

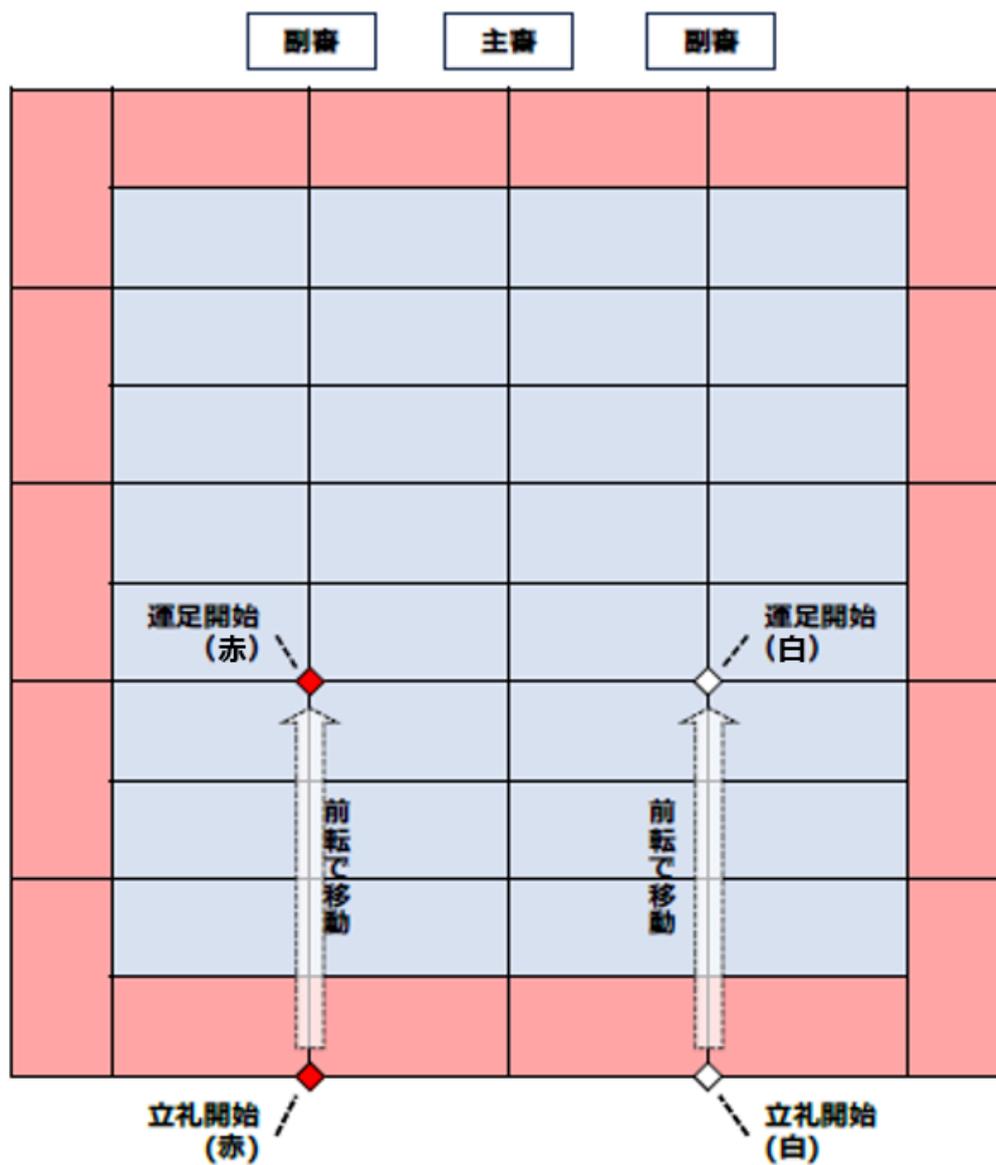
岳雲



別紙1: 競技内容(詳細)

別1:1. 新人運足八法競技

<p>競技の狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 新人が十分な習熟期間を経ず大会出場に臨むことを鑑み、将来的な実技向上のために大会開催月時点で重視すべき実技の定着度・習熟度を競う。 <重視すべき実技> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 基本的な立ち方 ✓ 動攻五戒を意識した旋技/運技/変技 ✓ 躰道・武道的要素を意識した運身 ✓ 礼法(立礼、座礼)や基動点・基動線
<p>競技の概要</p>	<p>以下の筋に則り、運足・基本技を行う。</p> <p><運足八法競技の流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 開始位置に移動し、結び立ちで起立。 ▪ 結び立ちのまま、審判の笛①で立礼後、閉足立ちに移行。 <p>※立礼から判定対象となります</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 開始位置にて、閉足立ちから左中段構え。 ▪ 開始位置から、運足八法開始位置(コート端から2畳)まで前転で移動し、前転から滑らかに左下段構えに移行。 <p>※基動点から外れた箇所では前転を終了し、下段構えが基動点から外れてしまった場合、運足開始前に必ず基動点に戻ること。開始時点で基動点にいない場合は減点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 審判の笛②で、運足八法(左下段側)を行う。 <p>ただし、運足八法中には以下の順番で旋・運・変の実技を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 送足 2. 引足 3. 加足 4. 旋体直状突き・原態(退足) 5. 減足 6. 交足 7. 点足 8. 運体蹴り突き(追足は行わない) 9. 退足 10. 変体海老蹴り 11. (原態後)右中段構え 12. (右中段構え後)右下段構え <p>※相手選手よりも先に右下段構えをとった場合は、審判の笛③まで下段構えにて待機</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 審判の笛③で、運足八法(右下段側)を行う。運足八法の順番は、左下段側と同様。 <ol style="list-style-type: none"> 1~12. 同上 13. 左下段構え後、正座 14. (正座後)座礼 <p><実技参考動画></p> <p>正面視点: https://youtu.be/XyqWEPUMW4A?feature=shared</p> <p>横視点: https://youtu.be/02sEkkG5RGw?feature=shared</p>
<p>判定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 3名の審判が、以下の観点で実技の評価を行い、審判員の赤白の旗の数によって勝敗を決定する。 ✓ 基本的な立ち方(常の身、立ち方八態、構え)の体得 ✓ 旋技/運技/変技の動攻五戒(単技・連技)の体得 ✓ 躰道・武道的要素を意識した運身の体得 ✓ 基本的な礼法(立礼、座礼)や意識の体得 ✓ 基動点・基動線の意識定着
<p>出場資格</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 一般無級(2025年度入部した新人)及び初階 ▪ 男女混合



別2:2. 男子段位個人法形 / 3. 女子段位個人法形 / 4. 男子級位個人法形 / 5. 女子級位個人法形

競技の狙い	<ul style="list-style-type: none"> 身体操作だけではなく、躰道の法形ならではの他律的要素(「懸」「待」「表裏」)を意識した「相手が見える表現・対の先が見える表現」の体得と、体得に向けた修練方法や発想の向上を意図し、他律的要素の表現度をより重視した判定を行う。 				
競技の概要	<ul style="list-style-type: none"> 事前に配布する変体/変陰の参考動画の敵役の動きに対応することを想定し、指定法形を実施する。 				
指定法形	<ul style="list-style-type: none"> 男子段位個人法形: 1回戦から決勝戦まで変体の法形。 女子段位個人法形: 1回戦から決勝戦まで変陰の法形。 男子級位個人法形: 1回戦から決勝戦まで変体の法形。 女子級位個人法形: 1回戦から決勝戦まで変陰の法形。 				
判定	<ul style="list-style-type: none"> 3名の審判が実技の評価を行い、審判の赤白の旗の数によって勝敗を決定する。 審判は、十大要素、基礎動作及び動功五戒による基本技法の体得度を基本とし、他律的要素の表現度を加味した観点で評価を行う。 絶対的評価による加減点法で計算し、赤白選手の相対的評価によって勝敗の判定を行う。 絶対的評価における加減点法で計算においては、躰道ルールブックに記載の評価基準による加減点に加え、法形全体を通しての他律的要素の表現度によってさらに0~1.0点の加点をし、計算する。 ※他律的要素の表現が著しく優れた法形が見受けられた場合は1.0点以上の加点も認める 他律的要素の表現度の評価は十大要素の「攻防と陰陽」を前提として、特に以下の観点を重視して行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・緩急と強弱 ・気合と威力 ・目技 				
出場資格	<p>男子段位個人法形: 初段以上(黒帯)、男子 女子段位個人法形: 初段以上(黒帯)、女子 男子級位個人法形: 色帯(1~4級)、男子 女子級位個人法形: 色帯(1~4級)、女子</p>				
参考動画	<p>変体の法形: https://youtu.be/Sv_LPzekRHk?feature=shared 変陰の法形: https://youtu.be/zAeDqYal6F4?feature=shared ※動画はこちらのQRコードからも閲覧可能です。</p> <table border="1" data-bbox="320 1122 1075 1451"> <thead> <tr> <th data-bbox="320 1122 699 1182">変体の法形</th> <th data-bbox="699 1122 1075 1182">変陰の法形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="320 1182 699 1451">  </td> <td data-bbox="699 1182 1075 1451">  </td> </tr> </tbody> </table>	変体の法形	変陰の法形		
変体の法形	変陰の法形				
					

別3:6. 男子段位個人実戦/7. 女子段位個人実戦

<p>競技の狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 従来の実戦競技においては、ポイント取得を主眼に置いた実技展開となりやすいことを鑑み、「躰道らしい実技」、特に連動連体を志向する実戦を体得することを狙う。 ▪ そのため、日本躰道協会指導局による2025年度の重点テーマ*を評価に組み込み、判定を行う。 <p>また、選手/審判が競技中も重点テーマを意識して実技を行うことができるように競技ルールを変更し、試行する。</p>
<p>競技の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 試合時間は1分半。 ▪ ※実戦競技の時間は、主審の競技開始の合図により計るものとし、主審あるいは副審がホイッスル等で試合を制止した時、計時係は時間を止め主審の合図で再開する。 ▪ 試合開始後、45秒が経過したタイミングで試合を中断し、主審より指導を行う。 <p>指導後、競技を再開し、主審・副審等による判定を行う。</p> <p><競技の流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 主審の合図により、競技を開始。 ▪ 競技開始45秒後、主審・副審・特別審で指導点を確認したのち、主審による指導を行う。 ▪ 指導後、競技を再開し、45秒後の競技時間後、審判の合図により競技を終了する。
<p>判定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 試合の進行と判定を担う主審・副審に加え、連動技判定と指導点確認を担う特別審の3名体制で判定を行う。 ▪ 判定時、特別審は対象の実技が連動連体の伴ったものであったか判定を行う。 ▪ 判定には赤旗を用いることとし、連動連体であった場合は旗を上げることとする。 ▪ 特別審により連動技の判定がなされた場合、技の判定は通常の判定からワンランク上げることとする。 <p>例: 赤選手の旋体蹴りが極め技不十分で通常は有効判定であったが、特別審が連動技判定の赤旗を上げた場合。</p> <p>主審発声例「ただいまの赤の旋体蹴り、極め技不十分ですが連動技のため技ありとします。赤旋体蹴り技あり。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 連動技判定の基準は以下を目安とする。 <ul style="list-style-type: none"> ●極め技に至るまでの一連の動きの中に、2個以上(種類問わず)の操体が施されていること。 ●2個以上の操体の効果(攻態・防態)が極め技に表れていること。 <p>連動技の判定は特別審が行うが、主審・副審がその判定に疑義をもった場合や特別審が判断に迷った場合は、試合を止め3者で話し合うこととする。ただし、最終的な判断は特別審が行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 主審・副審は、運足・操体・制法・極技・原態の流れに加え、日本躰道協会指導局による2025年度実戦競技重点テーマの観点を鑑み、判定を行う。 <p>特に、操体不十分な(片手卍、操体と制法が分離した)技についてはポイントを取らない。</p> <p><u>*参考:日本躰道協会2025年度実戦競技重点テーマ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 構え・運足・操体と相手に対して正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 全体、足向、膝向、体の向き、腰動、重心、体技不一致、三つの嫌い(飛び足、摺り足、浮き足)、内弦、応変実動、動功五戒 ■ 原態復帰までしっかり行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 気抜け、目技、間合い、制御 ■ 突き技の防手を徹底すること <ul style="list-style-type: none"> ✓ 旋・運・捻・転の際の顔面カバー等 ■ 攻撃の目標を正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 運足～原態、蹴りの抱え、膝向 ■ 正しい応変風靡、防体・操体不十分な技の禁止。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 片手卍、運突き等

<判定の流れ>			
試合時間	競技の流れ	今大会での追加基準	判定
競技開始 ～45秒	主審の笛で競技開始し、 審判の合図により競技停止	主審・副審 判定時、特別審が連動技の判定を行った場合、判定をワンランク上げる。 2025年度実戦競技重点テーマに基づき、指導が必要な点を注視。 特別審 判定時、対象の実技が連動連体の伴ったものであったか判定を行う。 2025年度実戦競技重点テーマに基づき、指導が必要な点を注視。	45秒の間に「一本」または「失格」の判定が行われた場合、勝敗が決する。
指導時間	主審・副審・特別審により指導点を確認した後、主審から指導を実施 所定の判定ルールに則り、指導内容を判定に反映	主審 両選手を立たせた後、副審・特別審を集め、3者で指導点を確認する。 指導の程度に応じて、指導された選手に「注意」等の追加判定を行う。指導内容が複数あり、それらを統合して一つの「注意」を取る場合、主審は主要な注意内容を挙げて注意を取る。 指導時間による判定も、通常判定と同様に、「注意」2本で「警告」とし、「注意」3本で「失格」とする。	
指導後 ～45秒	主審の笛で競技再開し、 審判の合図により競技停止	主審・副審 判定時、特別審が連動技の判定を行った場合、判定をワンランク上げる。 特別審 判定時、対象の実技が連動連体の伴ったものであったか判定を行う。	技有vs有効や、注意ありvsなしなど、判定により勝敗がつく場合は、判定結果により勝敗を決する 双方有効など、判定上、引き分けになった場合は、主審・副審・特別審3名の合議により、内容の優劣によって勝敗が決する。
出場資格	男子段位個人実戦:初段以上(黒帯)、男子 女子段位個人実戦:初段以上(黒帯)、女子		

別4:8. 男子級位個人実戦/9. 女子級位個人実戦

<p>競技の狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 従来の実戦競技においては、ポイント取得を主眼に置いた実技展開となりやすいことを鑑み、「躰道らしい実技」を志向する実戦を体得することを狙う。 ▪ そのため、日本躰道協会指導局による2025年度の重点テーマ*を評価に組み込み、判定を行う。 <p>また、選手/審判が競技中も重点テーマを意識して実技を行うことができるように競技ルールを変更し、試行する。</p>
<p>競技の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 試合時間は1分半。 ▪ ※実戦競技の時間は、主審の競技開始の合図により計るものとし、主審あるいは副審がホイッスル等で試合を制止した時、計時係は時間を止め主審の合図で再開する。 ▪ 試合開始後、45秒が経過したタイミングで試合を中断し、指導審判員より、指導を行う。指導後、競技を再開し、主審・副審等による判定を行う。 <p><競技の流れ></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 主審の合図により、競技を開始。 ▪ 競技開始45秒後、指導審判員による指導を行う。 ▪ 指導後、競技を再開し、45秒後の競技時間後、審判の合図により競技を終了する。
<p>判定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 試合の進行と判定を担う主審・副審に加え、指導と指導判定を担う指導審判員の3名体制で判定を行う。 ▪ 主審・副審は、運足・操体・制法・極技・原態の流れに加え、日本躰道協会指導局による2025年度実戦競技重点テーマの観点を鑑み、判定を行う。 ▪ 特に、操体不十分な(片手卍、操体と制法が分離した)技についてはポイントを取らない。 ▪ *参考:日本躰道協会2025年度実戦競技重点テーマ <ul style="list-style-type: none"> ■ 構え・運足・操体と相手に対して正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 整体、足向、膝向、体の向き、腰動、重心、体技不一致、三つの嫌い(飛び足、摺り足、浮き足)、内弦、応変実動、動功五戒 ■ 原態復帰までしっかり行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 気抜け、目技、間合い、制御 ■ 突き技の防手を徹底すること <ul style="list-style-type: none"> ✓ 旋・運・捻・転の際の顔面カバー等 ■ 攻撃の目標を正しく行うこと <ul style="list-style-type: none"> ✓ 運足～原態、蹴りの抱え、膝向 ■ 正しい応変風靡、防体・操体不十分な技の禁止。 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 片手卍、運突き等 ▪ 指導審判員は、日本躰道協会指導局による2025年度実戦競技重点テーマに基づき、赤白双方の指導ポイントの判定を行う。 ▪ 赤白の勝敗は、主審・副審による判定に加え、指導審判員の指導ポイントも加味し、判断を行う。

<判定の流れ>			
試合時間	競技の流れ	今大会での追加基準	判定
競技開始 ～45秒	主審の笛で競技開始し、 審判の合図により競技停止	主審・副審 操体不十分/制法・防手不十分/ 極技不十分/原態不十分の場合は、 技の評価をワンランク落とすこととする。 指導審判員 別紙2の実戦採点表に基づき、構え/ 運足/操体/制法・防手にて指導を要 すると判断された内容に応じて、指 導ポイントを付与する。	45秒の間に「一本」または 「失格」の判定が行われた場 合、勝敗が決する。
指導時間	指導審判員により競技者 に 指導を実施 所定の判定ルールに則り、 指導内容を判定に反映	指導審判員 指導ポイントの付与数に応じて、指 導された選手の相手選手に「有効」 等の追加判定を行う。 指導ポイントによる判定も、通常判 定と同様に、「有効」2本で「技有」と し、「技有」2本で「一本」とする。 指導ポイント×5で 相手選手に「有効」を追加	指導審判員の追加判定によ り、既存の判定が「一本」の判 定に繰り上がった場合、 勝敗が決する。
指導後 ～45秒	主審の笛で競技再開し、 審判の合図により競技停 止	主審・副審 操体不十分/制法・防手不十分/極技 不十分/原態不十分の場合は、技の 評価をワンランク落とすこととする。 指導審判員 別紙2の実戦採点表に基づき、構え/ 運足/操体/制法・防手にて指導を 要すると判断された内容に応じて、 継続して、指導ポイントを付与する。	技有vs有効や、注意ありvsなし など、判定により勝敗がつく 場合は、判定結果により 勝敗を決する 双方有効など、判定上、引き分 けになった場合は、指導審判 員が付けている指導ポイントの 数が少ない方を勝者とする。 指導審判員の指導ポイントの 数も同数だった場合は、主審・ 副審・指導審判員3名の合議 により、内容の優劣によって 勝敗が決する。
出場資格	男子級位個人実戦:色帯(1~4級)、男子 女子級位個人実戦:色帯(1~4級)、女子		

別4:10. 段位団体実戦競技

競技の狙い	<ul style="list-style-type: none">▪ 団体実戦の経験を積む。▪ 団体内および団体間での交流を促進する。
競技の概要	<ul style="list-style-type: none">▪ 試合時間は1分半とする。▪ 競技、審判、判定は他大会の団体実戦競技と同様に行う。▪ 男子3名、女子2名を1チームとする。▪ 各団体からの参加チーム数は無制限とする。
審判ルール	<ul style="list-style-type: none">▪ 判定は通常通り(追加ルールなし)
判定基準	<ul style="list-style-type: none">▪ 判定は通常通り(追加ルールなし)
出場資格	<ul style="list-style-type: none">▪ 初段以上(黒帯)▪ 男女混合

2025年6月
編集 創玄杯実行委員会